

3 保存対策

(1) 修理前の状況

ア 書庫内配置

特別文庫室は図書館の5階に位置し、所管資料24万点が同室閉架書庫内の引違ガラス戸付書架に文庫別に配置されている。資料は収集の経緯から十四の文庫からなり、甲良家から納められた文書類は、その中の東京誌料コレクションで保管されている。この内、伝来の明らかな646点が「江戸城造営関係資料(甲良家伝来)」として重要文化財に指定されたが、請求記号順に他の資料と一緒に配架し、重要文化財には収納容器にシールを貼って区別していた。

イ 収納容器

(ア) 指図類

本資料群の大半を占める建築図面は、小さく折り畳んで収納していた。収納容器は、紺色の紙帙、地図ケースのようなタイプのブック型ホルダーと、中性紙で作製した畳紙があった。大きさは資料に合わせて作られ、およそB5サイズ程度のものが多かった。

(イ) 卷子、掛幅装

中性紙で作製した軸箱に収納していた。

(ウ) 冊子、折本、家伝書類

伝来時の紺布帙、紺紙帙、中性紙で作製した畳紙に収納されていた。

ウ 問題点

(ア) 折装の指図類

小さく折り畳んでいたため、折り角からの損傷、劣化の進行が問題となっていた。収納容器では、特にブック型ホルダーが、マジックテープで蓋を止めるようになっていたため、開閉の際押さえつけて資料に負荷を与えることも問題であった。

「東京都立中央図書館建築関係資料保存対策調査報告書」(注1)では、できるだけ折り目をつくらぬような方法で保存することが望ましい、と提言された。

(イ) 卷子装、掛幅装、冊子類

「報告書」では、収納容器は適切なものに変えること等が指摘されたが、既に中性紙で軸箱、畳紙を作製し、入替え済みであった。

(ウ) 重要文化財の集中管理

本事業における保存・修理の検討過程で、重要文化財のみを別置して集中管理することが求められた。このとき都立図書館では、増え続ける蔵書の書庫対策が深刻で、特別文庫の書庫スペースを広げる等の対応は不可能であったため、現有書庫スペースで収納対策を検討することとなった。

(2) 保存対策の概要

ア 畳み図の保存対策

(ア) 共通の保存箱

江戸城造営関係資料の修理対象外資料を含む畳み図全資料を、収納するための保

存箱を作製した。保存箱を作製するに当たり、畳み図の保存に適した収納形態及び、特別文庫室書庫の環境、配置場所の戸棚、出庫の方法などを考慮に入れ、連絡会にて検討を行った。試作の保存箱を作成し、実際に図書館の書庫内で取り扱いなどのテストを行った。細部にわたり検討を行い、図書館内書庫、書棚からの取り出し、持ち運びの安全性を考慮し、資料を含め、一箱全体で6 kg 以内となるよう仕様を決定し、作製した。以下の順に、収納した。〔図 44〕

各資料を中性紙の薄様に挟む

- ・ 一点ごとに半分折りにした中性紙の薄様に挟み込んだ。

1 ~ 2 点をまとめて畳紙に収納

- ・ 畳紙は下紙を中性紙の中厚紙とし、その四方より中性紙の薄紙にて包み込む形とした。〔図 45〕
- ・ 畳紙に収納する資料の数は本紙の状態、形態を考慮し、調整した。

数点ずつまとめて布貼中性紙保存箱に収納

- ・ 収納箱は中性紙の厚紙を芯材に内側を中性紙の薄紙を貼り、外側を綿布貼りにした、かぶせ蓋の箱型とした。
- ・ 畳紙の出し入れを安全に行うため中性紙の厚紙に持ち手用の紐を取り付けた板を箱の底に入れた。〔図 46〕
- ・ 箱に収納する畳紙の数は、本紙の厚み、状態を考慮し調整した。但し、上限を9枚までとした。
- ・ 布貼中性紙保存箱の大型は、外寸法を81.5 cm × 58.0 cm × 6.5 cm、内寸法を79.5 cm × 56.0 cm × 5.5 cm とし、38箱作製した。
- ・ 布貼中性紙保存箱の小型は、外寸法を40.7 cm × 58.0 cm × 6.5 cm、内寸法を38.7 cm × 56.0 cm × 5.5 cm とし、2箱作製した。

(4) 大型図の専用保存箱

修理対象の畳み図で、一辺が2 mを超える大型図については、それぞれの資料の修理後の折り畳みの大きさに合わせ、専用の保存箱を作製した。〔図 47〕

修理後折り畳まれた資料を畳紙に収納

- ・ 畳紙は下紙を中性紙の厚紙とし、その四方より厚手の細川紙にて包み込む形とした。
- ・ 畳紙の出し入れを安全に行うため、畳紙の下紙に持ち手用の紐を取り付け
- ・ た板を作製した。

畳紙を布貼中性紙保存箱に収納

- ・ 収納箱は中性紙の厚紙を芯材に内側を中性紙の薄紙を貼り、外側を布貼りにした、かぶせ蓋の箱型とした。

イ 折本の専用保存箱

- ・ 修理対象の折本は、修理後の寸法に合わせ、中性紙の中厚紙を芯材に周りに布貼りした、専用の四方帙を作製した。

ウ 卷子の専用保存箱

- ・ 修理対象の卷子は、修理後の卷子、貼り紙を添付した台紙及び、別保存の旧表紙などの部材を収納した旧軸箱、修理前の貼り紙の位置などの記録資料を一括して収納可能な専用の保存箱を作製した。
- ・ 中性紙の厚紙で仕切りを付け、収納物それぞれの収納位置を特定した。
- ・ 専用の保存箱は、中性紙の厚紙を芯材に内側を中性紙の薄紙を貼り、外側を布貼りにした、箱型とし、蓋を爪で止める形とした。〔図 48〕

(3) 修理後の収納状況

平成 13 年度から 16 年度の 4 年間で、書庫内の配置変更、資料の収納変更を行った。保存箱は平成 13 年度から 15 年度にかけて、計 40 組（大型 38、小型 2）を製作した。出来上がった箱数に合わせて、毎年 5 - 6 月の特別整理期間に、仮配置、仮収納を行い、平成 16 年 6 月に収納計画を完了させた

ア 書庫内の配置

- (ア) 平成 14 年度 重要文化財専用の配置場所を設けた。

特別文庫室書庫の奥、西側一列の引違ガラス戸付書架 3 連複式を重要文化財用に確保し、東京誌料全体を再配置した。旧配置から重要文化財のみを抜き出し新配置場所に全面移動した。

- (イ) 平成 15 年度 書架の棚板を組み換えて、全保存箱を配置できるようにした。ガラス戸付書架の棚板を、上 3 段、下 5 段に付替え、全保存箱を配置した。

イ 資料の配置

- (ア) 指図 中段に保存箱を配置。（箱を取出しやすい位置にする）
(イ) 卷子、冊子、折本 最上段に並べて配置。
(ウ) 掛幅装 最下段に資料を横置きで配置。

ウ 指図の収納変更

- (ア) 修理対象外のものも含み、一枚物の指図全点 542 枚の収納を変更した。
(イ) 小さく折畳まれた指図を旧保存容器から出し、新たに作製した保存箱一杯にできる限り広げて収納できるようにした。
(ウ) 収納方法 資料は 1 点ずつ I L ティッシュに挟み、新たに作製した畳紙に入れたうえ、保存箱に収納した。保存箱 1 組に畳紙 8 ~ 9 枚、畳紙 1 枚に指図 1 ~ 2 点程度を収納。
(I) 厚みのある図は、畳紙 1 枚に 1 点を収納。特に厚い図は、保存箱内で一番上になるようにした。
(オ) 大型図（一辺が 200cm 以上）11 点は、別に専用保存箱を作製し、個別に 1 点ずつ収納した。
(カ) 作業は、平成 14 年度に旧容器から資料を取出し、I L ティッシュに挟んで保

存箱に仮収納することを始め、15年度には全資料を請求記号順に入れ込み、一部
畳紙に入れて仮配置、平成16年度に全資料を畳紙に入れたうえ、保存箱に収納
して棚に配置し、全点の入替えを完了した。

(4) 利用と活用

ア 登録及び、事前申込み制度の導入

原資料を保護するため、登録をして事前申込みの上閲覧を許可する制度を導入
した。

(ア) 「東京都立中央図書館特別文庫室重要文化財資料利用要綱」(平成16年1月
決定)(注2)

(イ) 「特別文庫資料閲覧要綱」(平成14年3月決定)

イ 大型図取扱マニュアルの作成

一辺が200cm以上の大型図11点を取扱う方法をマニュアルとして作成した。
また、映像で取扱い方法を知るため、超大型図4点についてはビデオも制作した
(注3)。原資料閲覧の際には、図書館職員が資料の開閉等の取扱技術に習熟してい
る必要がある。最大約4×5メートルの原資料を開閉するには、資料を置く位置
とその向きを知り、6人の職員がチームワークよく取扱うことが重要である。こ
のような技術を継承してゆくため、作成したマニュアルに基づき職員が研修を行
うこととする。

ウ 活用

修復後の良い状態で長く保存できるよう、平成13年度から重要文化財全点の
撮影・電子化を進めている。「報告書」で指摘されたように、閲覧をする度に資料
の傷みが進むのは確実である(注4)。原資料の閲覧は専門的な調査研究に制限する
一方で、デジタルデータを作成しパソコン画面上での閲覧と活用を図っている。
平成16年3月、都立図書館のホームページ、貴重資料画像データベースで「江
戸城造営関係資料」のインターネット発信を始めた(注5)。

貴重資料画像データベースでは、資料の名称だけでなくフリーワードや本丸・
西の丸等の区域と建物名等の建築区分他で容易に調べられるようになった。以前
は、冊子目録に収録されている内容でしか分からなかったので専門的な立場から
の目録の作成が待たれていたが、当データベースの公開により、多くの検索項
目から、また、館外からも調査できるようになった(注6)。

注

1 前掲「東京都立中央図書館建築関係資料保存対策調査報告書」 p.50,55- 56

2 資料編(5)参照

3 ビデオ「重文江戸城造営関係資料(甲良家伝来)超大型図の取扱い方法」

制作・著作：東京都立中央図書館 撮影：平成15年3月26日 時間：37分

内容：「重文江戸城造営関係資料(甲良家伝来)」について(平井聖)、大型図の取扱いについ
て(増田勝彦)、取扱実演 平成14年度修復の超大型図4点

- 4 「報告書」 p.13
- 5 「東京都立中央図書館研究紀要」33号 2004年度 図書館資料のデジタル化 インターネットでの画像データ発信に向けて 東京都立中央図書館 2005.3
- 6 検索項目 名称、奥書・署名等、請求記号、建築区分、図面種類、元号